

自由民主党会派の紹介



鈴木洋一
福祉環境委員
大館市⑨



鶴田有司
教育公安委員
横手市⑧



川口一
農林水産委員
鹿角市鹿角郡⑦



柴田正敏
建設委員
議会運営委員
横手市⑥



加藤鉦一
建設委員
自由民主党会派会長
由利本荘市⑤



工藤嘉範
議長
産業観光委員
秋田市⑤



原幸子
産業観光委員
監査委員
大仙市仙北郡⑤



竹下博英
予算特別委員長
福祉環境委員
秋田市⑤



北林丈正
総務企画委員
北秋田市北秋田郡⑤



高橋武浩
教育公安委員
能代市山本郡③



今川雄策
建設副委員長
議会運営委員
秋田市③



佐藤信喜
議会運営委員長
総務企画委員
能代市山本郡③



杉本俊比古
福祉環境委員
男鹿市③



佐々木雄太
農林水産委員
議会運営委員
政務調査会長
にかほ市③



鈴木真実
建設委員長
南秋田郡②



小野一彦
農林水産委員長
由利本荘市②



小山緑郎
産業観光委員長
大仙市仙北郡②



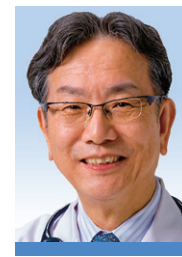
児玉政明
福祉環境副委員長
議会運営委員
鹿角市鹿角郡②



住谷達
議会運営副委員長
産業観光委員
湯沢市雄勝郡②



宇佐見康人
予算特別副委員長
総務企画委員
秋田市②



島田薫
副議長
教育公安委員
秋田市②



瓜生望
教育公安委員長
湯上市②



高橋豪
総務企画委員長
議会運営委員
仙北市②



小棚木政之
産業観光副委員長
大館市①



武内伸文
総務企画副委員長
秋田市①



高橋健
教育公安副委員長
議会運営委員
湯沢市雄勝郡①



川辺隼之介
農林水産委員
秋田市①



氏名
会派の役職
委員長 副委員長
議会運営委員
予算特別委員
選挙区/当選回数



県民と自由民主党
会派をつなぐ

ご質問、ご意見をお聞かせください。
秋田県議会自由民主党会派

編集/秋田県議会自由民主党会派 政務調査会 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号【県議会内】 発行/令和8年1月1日



新時代に咲き誇る秋田

— 県民の夢を育み、県民の希望をかなえる —

2026.01 No.48

県民と自由民主党会派をつなぐ



芽吹きのかきとう



自由民主党会派 会長
加藤 鉦一

新しい年を迎え皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年、ツキノワグマによる日常生活圏への大量出没が続き、県民の命を守るため、管理捕獲及び被害防止対策の強化が根本から見直される一年となりました。

一方政局では、昨年10月の自民党総裁選において、選出された女性初の高市早苗総裁は、同じく女性で初めて内閣総理大臣に指名されました。高市総理は所信表明演説で、暮らしや未来への不安を希望に変え、強い経済をつくる決意を宣言しております。

私たち県議会自民党会派は県選出自民党国会議員とともに、県政与党として責任をもって地域の安心安全に最大限に取り組む、新時代に咲き誇る秋田の実現を目指してまいります。

県民の皆様お一人おひとりにとりまして、素晴らしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます。

秋田県は 負けない！

県民の命と暮らしを守り抜く。

2025年秋田県では、クマの出没・被害がかつてない深刻なレベルで拡大しています。市街地や住宅地、学校近く、商業施設、公園など、人が生活する場所での目撃や侵入が相次ぎ、「クマは山奥の生き物」という従来のイメージが通じにくい状況です。多くの県民が日常生活で「クマ被害の恐怖」を意識せざるを得ない状況にあります。

これ以上人身被害を起こさないため、自民党会派では県に対して様々な緊急対策の提言をしてまいりました。

私たちの生活圏を取り戻すための最も重要な戦いです！

秋田県に「非常事態宣言」。クマ被害、人身被害が全国最多ペースを更新！

2025年度、秋田県によると、県内では人的被害が66人にのぼり、うち4人が亡くなりました。（11月末時点）これは**全国の都道府県で最多の被害数**であり、県は「非常事態」として国に財政支援と対策協力を強く要請しています。

項 目	2025年度11月末時点の状況	過去との比較
人身被害者数	66人	過去最多ペースを更新
犠 牲 者 数	4人	極めて深刻なレベル
出 没 頭 数	13,168件	前年同期より大幅に増加
捕 獲 頭 数	2,568頭（12/15現在）	過去最多を更新

なぜ「今」このような状況か ― 背景要因

餌 不 足	秋の山の実（ブナ科堅果など）の不作が、クマを低地や人里に移動させます。猛暑による山菜の不作も影響しています。
人里への餌源の増加	放置された柿や栗などの果樹がクマを誘引します。耕作放棄地の増加や、空き家、空き地などに茂る植物もクマの隠れ場所や餌場となります。
生息環境の変化	林業や狩猟の減少、過疎化・高齢化により、人がクマを遠ざける力が弱まっています。



特に、被害は山間部だけでなく、秋田市の千秋公園のような市街地の公園や住宅地でも発生しており、住民の生活圏の安全が著しく脅かされています。一度捕獲された後も、すぐに新たなクマの目撃情報が入り、規制と解除が繰り返されるなど、緊迫した状態が続いています。

クマ被害を食い止めるために！

各地域の皆さまのご意見等を収集

猟友会だけでは熊対策が困難なため、警察や行政職員が狩猟免許や猟銃を用いての対応・対策はできないのか？

すでにフェーズが変わり、これはもはや災害である。警察や自衛隊にも対応をしていただき、強く要望する。

子どもたちを守るため、小中学校等の通学路や校舎へのクマの接近及び侵入を防止するための対策を今すぐにでもすべきだ。

自民党会派として
知事・県当局に対し、

要望
提言

知事は「極めて深刻だ」と訴え、対策にあたるマンパワー・財源不足を解消するための支援を国に強く求めました。

11月13日からは、秋田県と岩手県で、警察官がライフル銃を使ってクマを駆除できるよう、国家公安委員会規則が改正・施行され、両県警ではクマ駆除対応の**特別部隊「熊駆除対応プロジェクトチーム」**が編成されました。

また、公務員ハンターや、警察官（機動隊など）の熊駆除に対する要望に関しても新たな動きが検討され、国や自治体レベルで具体的な対策が進みました。

県より防衛省に要望し、**自衛隊が災害派遣としてクマ対策支援活動を実施**。（派遣期間：2025年11月5日から11月30日まで）延べ815人の隊員が、県内11市町村で活動にあたり、「箱わな」の運搬・設置支援、ドローンを使った情報収集、駆除されたクマの運搬作業に務めていただきました。

民間の警備会社が**学校等周辺の警備を開始**しました。

さらに国や市町村、関係団体と協力し、被害防止措置を進め、クマよけスプレーを小中学校、高校、PTAやボランティア団体などを含め、計1,550本が緊急配備されました。

小中学校等周辺の警戒、巡回



Photo/ 陸上自衛隊提供



Photo/ 受託事業者提供

誹謗中傷に負けない。毅然とした態度で熊対策を進める覚悟。

相変わらず県庁への電話やSNS 上で、誹謗中傷と見られても仕方がない表現が後を絶ちません。中には本当にひどいものもあるのも事実です。

私たちは熊を絶滅させることなどこれまで一度も考えたことなく、いかに共生していけるかを考えてきました。その上で、一番大切なのは「人命」であります。

まず、熊が市街地に出てくるという異常事態を1日も早く終息させるためにやることは全てやる。そして、その後は、熊などとも共生していける社会を創るための施策を展開していくことが必要となってきます。

県民の安全・安心、何よりも命を守るために、これまで以上に地域の皆さまの声を秋田県に、そして国に届けてまいります。

あなたの声が、着実にカタチになっています。



クマと遭遇した場合は、必ず市町村もしくは警察に通報してください。